霊操　第２６回　イエスのいやしの業　　12 月 10 日配信　柴田潔　神父

はじめの祈り（マルコ 10：46～48）

ティマイの子で、バルティマイという盲人の物乞いが道端に座っていた。ナザレのイエスだと聞くと、叫んで、「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と言い始めた。多くの人々が叱りつけて黙らせようとしたが、彼はますます「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と叫び続けた。

霊操　第２週

イエス・キリストは自分にとってどのような方か？　知ることが狙いです。

「いやし」「奇跡物語」は神の国の到来の目に見える「しるし」。

奇跡物語が書かれたのは、神の国の到来の「しるし」。福音の目に見える証と理解できます。

いやしの業の背景　イエスの弱い人への共感（幼年時代の体験）

イエスの周辺には、難病で放り出され、人間扱いされない人。土地を奪われ、農奴となった人。借金のかたに妻や娘まで売り飛ばされた人。失業し、追われ、蒸発する人たちがいました。宗教家はこうした人々を「罪人」と呼び、差別を増幅した。イエスは子供のころ以来、このような人間の悲惨と不正を心に焼き付けていたに違いない。

「ナザレにおける蓄積」『イエス・キリストの履歴』岩島忠彦著　オリエンス宗教研究所　2011 年（一部表現を変えています）

社会の底辺には、やもめ、孤児、娼婦、盲人、歩けない者、重い皮膚病をはじめさまざまな病気に悩まされている人々、彼らの生活は実にさんさんたるもので、悲哀に満ちた毎日を送っていました。

『キリスト教とは何か』からペトロ・ネメシュギ著　女子パウロ会　1977 年（一部表現を変えています）

子どもの時から培われたイエス様の弱い人への共感がいやしの業につながる

奇跡物語を記す意味

『なぜ聖書は奇跡物語を語るのか』一部表現を変えています　雨宮慧著　教友社　2011 年

当時のヘレニズム世界では、奇跡を行う人は珍しくなかった。だから奇跡を起こしたくらいでは、神と同じようには見なされなかった。

イエスが神の子だと信じられるようになったのは、十字架の死から蘇って、弟子たちのうちに生き続けているとみなされたから。

奇跡には「イエスは救い主であること」を証明する力はない。

奇跡は神の国を示す“しるし”の一つ。

“しるし”とはそれ自体に意味はなく、何かを指し示すことで意味が出てくる。

“しるし”は道路標識のようなもの。道路標識を見たドライバーは、標識の材質は何か？　それがどのように作られたか？　いつ頃作られたか？　いくらかかったか？　などとは考えない。

その標識が指し示す意味を理解して運転をする。道路標識そのものが大事ではなく、それが指し示す意味が大事。その意味が理解できれば、ドライバーは標識の存在さえ忘れてしまうかもしれません。

奇跡は、イエスの神性を証明するために書き留められたのではありません。イエスの神性を復活体験によって知った弟子たちが、旧約の神の働きの延長として、イエスの奇跡を語っています。

これまでの歴史を導き続けた神が、今もイエスとなって導いている、という信仰告白として奇跡が語られている。

弟子たちがイエスの神性を悟るのは奇跡によってではありません。福音書が繰り返し述べるように、奇跡が起こされた時には、弟子たちは無理解のままでした。例としてマルコ６：51～52

「パンの出来事を理解せず、心が鈍くなっていたからである」

イエスの振る舞いに注目する　レクチオ　・ディヴィナ

＊参考資料　「目からウロコ　福音書の中にイエスを「見る」祈り」（一部表現を変えています）来住英俊著　女子パウロ　2007 年

福音書は「イエス・キリスト」を知らせるために書かれた書

動詞に注目する

イエスの癒しの場面－イエスが(彼女の)そばに行き、手を取って　起こされると、熱は去り・・・(マルコ 1：31)

イエスの動作を示す動詞に注目することで、イエスの慈しみが心にしみてきませんか？

イエスは言われた・・・(必ずしも、「イエスは言われた」と書かれていなくても補って読んでみる)

イエスはどのような立場、心鏡で言われたのかを想像し、補足してみる。

主であり、師である私があなた方の足を洗ったのだから、あなた方も互いに足を洗わねばならない。(ヨハネ 13：14)

↓

(裏切られる前に)イエスは言われた、「私がしたように、あなた方も互いに足を洗い合いなさい。」

イエスが語られる時の表情に注目する（必ずしもイエスが語る時に修飾語がなくても想像してみる）

イエスが深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ、「よろしい、清くなれ」と言われると…（マルコ 1：41）

イエスは怒って人々を見回し、彼らのかたくなな心を悲しみながら、その人に「手を伸ばしなさい」と言われた。（マルコ 3：5）

時間の経過を読む

彼女は、一同をもてなした。・・・・夕方になって日が沈むと、人々は、病人や悪霊にとりつかれた者を皆、イエスのもとに連れて来た。町中の人が、戸口に集まった。（マルコ 1：31～33）

ユダヤ人の一日は、日没から日没までです。つまり、夕方までは安息日なので、病人を医者の所に連れて行くことはできません。医療行為は、仕事となるからです。このようなことを頭に入れると、シモンの姑が癒されてから日没までの時間の流れが感じられます。イエスはシモンの家におられて、お茶など飲んでくつろいでおられました。一方、人々は素晴らしい癒し手がこの町に来た噂を

聞いて、町中の病人とその家族は、安息日が終わるのを今か今かを待ち構えていました。「・・・・」は聖書にはありませんが、時間の経過を味わってから次に移ると、イエスと病人たちの出会いがよりリアルに感じられます。どっと、人々が押し寄せる様子、それを迎えるイエスの表情を想像してみましょう。

イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て、飼い主がいない羊のような有様を深く憐れみ、いろいろと教え始められた。・・・・そのうち、時もだいぶ経ったので、弟子たちがイエスのそばに寄って来て言った。(マルコ 6：34～35)

イエスが人々に親切に教えておられる時間の経過を意識してみましょう。そうしてこそ、次にくる「男だけで 5 千人の群衆に十分食べさせる」という出来事が見えてきます。

いやしの具体的聖書箇所　ルカ 17：11～19　＜重い皮膚病を患っている 10 人をいやす＞

イエスはエルサレムへ上る途中、サマリアとガリラヤの間を通られた。ある村に入ると、重い皮膚病を患っている 10 人の人が出迎え、遠くの方に立ち止まったまま声を張り上げて、「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんで下さい」と言った。イエスは重い皮膚病を患っている人たちを見て、「祭司たちのところへ行って、体を見せなさい」と言われた。彼らは、そこへ行く途中でいやされた。その中の一人は、自分がいやされたことを知って、大声で神を賛美しながら戻って来た。そして、イエスの足元にひれ伏して感謝した。この人はサマリア人だった。そこで、イエスは言われた。「清くされたのは 10 人ではなかったか。ほかの 9 人はどこにいるのか。この外国人のほ

かに、神を賛美するために戻って来た者はいないか。」それから、イエスはその人に言われた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」

レクチオ・ディビナのポイント

＊参考資料　「目からウロコ　聖書の読み方　レクチオ　・ディヴィナ入門」（一部表現を変えています）来住英俊著　女子パウロ 2007 年

☆主語と動詞、接続詞に注目する。

☆どの登場人物の視点で読むか？（清くされた 10 人、いやされたサマリア人、イエス、群衆）

☆イエスのいやされ方に注目する（触れていやされたのか、そうではなかったのか？）

☆清くされた人とイエスとの関わりとサマリア人とイエスとの関わりの違い

☆自分は今どの立場にいるのか？

☆今、感謝や賛美をしているか？

☆イエスの救いの宣言が心に響くか？

☆イエスは現代の日本で誰に救いをもたらそうとされているのか？

ある教会での信者さんとの分かち合い内容

・イエスが 10 人の人に声をかけた大きさや雰囲気はどうだったのか？　いつもは穏やかな印象。

　今回は遠くにいる人にどのように声をかけられたのか？

・身近な人々にサマリア人のように感謝の気持ちを伝えたい。

・現状に悲惨さに絶望し、イエスにすがる 10 人は今の私と同じ。

・清くされた 10 人の驚きはどれほどのものだったのか？

・わたしには、日頃清くされた、癒された、救われた実感がなく逆に辛い感じが付きまとう。実はそれらがすでに実現していることがわかった。「いや、あなたはすでに清くされていますよ」と声を掛けられた気がした。。

・大声で神を賛美する、イエスの足元にひれ伏すほどの感動や感謝をしたことがあるかと自問した。

・うらやましく感じた。頭ではなく、体全体で神を賛美したい。そのような信仰が欲しい。

・イエスはいつも、自分が癒したとは言われず、あなたの信仰があなたを救ったとおっしゃられる。

・救いとは信じること。

・サマリア人は、すべての人が救われる象徴。

・戻って感謝したサマリア人は、心から生きた神を畏れ多く感じていた。

・サマリア人は純粋にキリストは素晴らしい方だと言えた。

・10 人は、わたしたちのこと。人生の途上でこのような癒しに与るのはいつのことなのか？

注釈書による知識

☆前後のつながり

イエスはエルサレムへの旅の途中でしたが、その旅の頂点にはイエスの死と復活があります。

・ルカ 9：51～56　　サマリアの村人の拒否が続く

「イエスは、天に上げられる時期が近付くと、エルサレムに向かう決意を固められた。・・・サマリア人の村に入った。しかし、村人はイエスを歓迎しなかった。イエスがエルサレムを目指して進んでおられたからである。」

・ルカ 13：22　終末への警告が直結し、その結びは、ユダヤ人は神の国に入らず異邦人が入る。

・ルカ 17：19　ここでは 10 人の思い皮膚病患者の内サマリア人だけが信仰の救いを得る。

今回のいやしは、後続する「神の国」(17：20～37)の問題への例証となる。神の国はイエスの病人のいやしにおいて到来するが(ルカ　11：20)、その神の支配はユダヤ民族に限定されないという教えの例として書かれている。

☆重い皮膚病とは？

レビ記１３章に規定されている種々の皮膚病の患者は、健康な人に近づくことが伝染病予防のために禁じられていた。そのため、彼らは遠くの方から大声で叫ばなければならなかった。

☆14 節　イエスの命令 - 「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」はレビ記 13：19，14：2 の

祭儀規定に即する。清くされた(カタリゾー)。

☆イエスのいやされ方（触れていやされたのか、そうではなかったのか？）

ルカ 5：12～14　重い皮膚病患者のいやし「イエスが手を差し伸べてその人に触れ・・」、

ルカ 18:35～43　エリコの盲人のいやし「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った。」

列王記下 5：10～14　シリアのナアマンのいやし「身を洗え、そうすれば清くなる。」・・ナアマンはヨルダン川に 7 たび身を浸した。(遠隔治癒)

☆15～16 節　治った病人の神への賛美は、通常の奇跡物語の証人の反応と重なります。しかし、ここでは物語の中心への導入となります。イエスの足元にひれ伏したのが、サマリア人であることで、話は一気に緊張する。

☆17～18 節　「この外国人」－外国生まれのユダヤ人ではなく、外国人・異邦人。この外国人が

神を賛美するために戻って来たのは、イエスの足元である。これによって、将来の異邦人が神を賛美する場所は、エルサレム神殿ではなく、イエスであることが暗示される。

☆19 節　外国人だけが信仰による救いを得たという言葉は、ユダヤ人への警告となっている。イエスへの信仰が、すでに治っている病人を救ったという時、イエスの救いは体の病のいやしが精神を含めた人間全体の救いに見えるしるしとなったことを暗示する。

ある聖書学者の解釈

☆14 節までは 10 人一緒。清くされたことも 10 人全員がわかったはず。清くされた(聖書の原文ギリシア語のカタリゾー)

☆15 節から別行動　その中の一人は、・・・癒された(聖書の原文ギリシア語の　イヤオマイ)ことを知って・・・動詞を使い分けている、意味合いが違う。カタリゾーは、祭儀規定から見て清い。患部がきれいになった。

イヤオマイは、体が清められたことに加え、**罪のゆるしというニュアンスが込められて使っている。**サマリア人は、体の清めだけでなく、神との絆の回復、社会や家族への復帰まで理解した。だから、イエスのもとに戻って感謝できた。

☆イエスのことばは「9 人は無礼だ」と言いたいわけではない。単に体が治っただけでなく、折角いやされた、救われたのに、それに気付かないのは、もったいない。救いに与ることで受ける恵みが大きくなる。

☆「9 人もうれしかった、治ることを待ち望んでいた。」予想もしないで清められたので、うれしさのあまりもう 2 度と会えないと思っていた家族や友人のもとへ急いだ。念願がかなった喜び

を家族と共にしようと考えて行動した。

☆1 人のサマリア人は、自分のいやし主(イエス)への感謝に向かった。また、受けた憐れみの大きさが「救いだ」と気づいた。清められただけでなく、救いそのものを味わった。

癒された人の様々な反応

マルコ 10：46　バルティマイの癒し

「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った」　盲人はすぐに見えるようになり、なお道を進まれるイエスに従った。

ルカ 18 ：35～　エリコの盲人

これを見た民衆は、こぞって神を賛美した。

奇跡を通して働く神の力を賛美した。

マタイ 8 ：14～　シモンの姑をいやす

・・・すると熱は去り、しゅうとめは起き上がってイエスをもてなした。

癒された結果→「もてなす」

救われた者が次の行動に出る→もてなす、食事の席などで「仕える」「給仕する」

ペトロのしゅうとめが神から受けたあわれみへの応答として「仕え」た。

神の子イエスを通して働く「神の救いのわざ」「福音」を受けた人が取るべき応答は神と人に「仕

える」生き方。（イグナチオの生き方）

イグナチオのいやされた体験

数々の癒された体験から「魂の救いのために同志を集める」ことを思いつく→イエズス会に発展

雨宮神父さんの言葉　信仰ということは、すでに完成したものとして持つものではなく、いつも発展途上にある。奇跡物語には「あなたの信仰があなたを救った」というように、奇跡によって癒される人の信仰が前提になることがある。これも、信仰を持っている人へのご褒美として奇跡が起こるというよりは、持っている信仰を増やしなさい、という呼びかけと受け取るべき。

いやしの体験：私の場合は報いを感じていやしを感じた

叙階式（2010 年 9 月 23 日）

12 年勤めた会社を辞めてイエズス会に入り「自分は大丈夫だろうか？」と心配しながら養成の期間を過ごしました。叙階式でこれまでのことが報われた気がしました。人生を神様に投げ出す“賭け”をして良かった。

たくさんの先輩司祭からの按手の時は、涙が止まりませんでした。主聖堂が一杯になった会衆からの祝福が、神様からの祝福に感じました。

フランシスコ教皇来日のメッセージ　すべての命を守るため（2019 年 11 月来日）

東日本大震災のボランティア

福島のお友だちを応援するカブトムシ

クリスマスの難民募金

危ない人から幼稚園のお友だちを守るために始めた護身術

「やってきたことに間違いはなかった」と報いを感じました。

自分の力が足りないことを認めながら、できることを続けたら、報いをいただける。癒される、そういう体験をしてきました。

まとめ　雨宮神父さんお言葉から

救いは信じることから　→宣べ伝えて広げるのが私たちの使命

人間の救いいの出来事を「信じる」ことにかかっている。

その場に居合わせなかった私たちは、目撃者の証言（福音書）を**「聞いて信じ」なければ救いに与れない。**

聞いて信じるためには、出来事を宣べ伝える人が必要。

パウロは、自分が生きているうちに終末が来ると信じていた。だから、神の救いの出来事を世界の隅々にまで**一刻も早く伝える使命感に燃えていた。**

宣べ伝えることは、救いの出来事に巻き込まれた者の、あるいは、その出来事を聞いて信じた者の**当然の使命**。それなしには救いの喜びに与かれる人は増えない。

振り返りの質問

Q. 聖書の中の癒しの場面から、自分に合う箇所を選んで黙想しましょう。

イエスに目をとめてもらった喜び、言葉を掛けてもらった喜び、触れてもらえた喜び、「あなたの信仰があなたを救った」と送り出してくれる励みを感じてみましょう。

＊参考文献　『息吹をうけて　日々の生活のなかで祈りを深める』　第 17 週「イエスのいやし」英隆一朗著　夢窓庵 2001 年

Q. これまでの人生が報われた、と感じた体験がありますか？

終わりの祈り

聖フランシスコ・ザビエルへの祈り

聖フランシスコ・ザビエルよ、あなたは布教の熱意に燃えて、初めて日本にキリストを告げ知らせました。わたしたちはあなたの血のにじむような努力と労苦を思い、心から感謝します。わたしたちが勇気をもって十字架を担い、キリストの国をいっそう広めることができますように助けてください。人々がキリストの教えを尊び、永遠のいのちを受けることができるように神にとりついでください。アーメン。

参考資料

『イエス・キリストの履歴』岩島忠彦著　オリエンス宗教研究所　2011 年

『キリスト教とは何か』ペトロ・ネメシュギ著　女子パウロ会　1977 年

『なぜ聖書は奇跡物語を語るのか』　雨宮慧著　教友社　2011 年

『目からウロコ　福音書の中にイエスを「見る」祈り』来住英俊著　女子パウロ　2007 年

『目からウロコ　聖書の読み方　レクチオ ・ディヴィア入門』来住英俊著　女子パウロ　2007 年

『息吹をうけて　日々の生活のなかで祈りを深める』 第 17 週「イエスのいやし」英隆一朗著　夢窓庵　2001 年